



南丹市立美山小学校

オフィシャルウェブサイト



〒601-0751 京都府南丹市美山町島 島台52番地 TEL: 0771-75-0017 FAX: 0771-75-0106 MAIL to: miyama-es@kyoto-be.ne.jp
通級指導教室 (ことばの教室) TEL:0771-75-1097

美山小学校WEBページ

トップページ

- ・学校紹介
- ・行事予定
- ・学校だより
- ・研究推進
- ・学校評価
- ・美山学
- ・美山学だより
- ・図書室だより
- ・R3年度美山っ子日記
- ・感染症対応マニュアル
- ・就学援助制度について
- ・いじめ防止基本方針
- ・気象警報等の対応
- ・全国学力・学習状況調査結果

since 2016.04.01

COUNTER 830895

リンク集

[南丹市教育委員会](#)
[南丹市役所](#)
[京都府教育委員会](#)
[京都府南丹教育局](#)
[文部科学省](#)

[南丹市立美山中学校](#)

南丹市立美山小学校

〒601-0751
京都府南丹市美山町島 島台52番地
TEL 0771-75-0017
FAX 0771-75-0106
MAIL miyama-es@kyoto-be.ne.jp



本ホームページの著作権は、南丹市立美山小学校に帰属します。

図書室から本のこと、読み聞かせのこと、言葉にかかわる話題などお伝えします!!

日誌

図書室からのお知らせ

◀前 1 2 3 4 5 6 7 8 次▶

カテゴリ選択 ▾

10件 ▾

2022/04/11 ■ ようこそ「美山の本の森」へ

| by 美山小

新年度が始まり 図書コーナーも 装い新たになりました!

今年度は 絵本作家の村上康成さんの絵本に登場する生きものをベースに 美山の自然を盛り込んでいます。



「美山の本の森」では 野鳥たちのモビールが ゆらゆらと お出迎え。
村上さんの描く鳥たちにまぎって 本物の鳥の写真も飛んでいます。
柱からは 森の動物たちが 顔をのぞかせていますよ。



天井は 廊下側から 森・空・川をイメージしています。



床には 動物たちの足跡が・・・。
 よーくみると 森の動物たちが描かれたボックスタワーに行ったり来たりしています。
 だーれもない 夜の間に 動物たちが現れて 図書室の本を読んでいたりして・・・。
 足跡の大きさなどは なるべく実物と同じぐらいにしたつもりです。
 ボックスタワーには 動物たちの大きさや生態 好物などが描かれています。
 ボックスを振ると音もするので 見て読んで 振って触って楽しんでください。



玄関側の川は ヤマメのこどもが成長していく「ピンクべっこん」を表しました。
 美山の川にも ヤマメやいろんな生き物がいますよね。
 植物や生きものの ポケット図鑑も手に取りやすい場所に展示しているので
 たくさんみつめて 観察して 身近な自然とともに過ごしていることを実感してほしいです。



イヌブナの枝には 野鳥カードがぶら下がっています。
 美山で見られる野鳥ばかり。
 学校にも 意外とたくさんの野鳥がとんできます。
 みんなから 野鳥の目撃情報も募集しますので 家や学校のまわりなどで野鳥を見つけたら いつ どこで どんな鳥を見つけたか 教えてください。



図書コーナーのそばの階段を上った場所には 芦生の森のガイドでもあり 芦生の写真を長年取り続けている 広瀬慎也さんの写真パネルを飾っています。

季節ごとに写真も入れ替えてくださる予定なので お楽しみに!



場所や飾り方が違うと また 改めて見てもらえるかな、と 思い 去年図書コーナーに掲示していた 長谷川義史さんの「たじゅれ日本一周」のパネルを 階段踊り場に移動させました。

今年度も 読書に親しんで 気軽に立ち寄れる図書室を目指して 頑張ります。よろしくお祈りします。

13:46 | 掲示物

■ 2022/03/14 ■ 朝の読み聞かせ

| by 美山小

今年度最後の月曜日。

朝の読み聞かせも最終回、ということで 卒業を迎える6年生の読み聞かせをしました。

いつもでしたら 読書ボランティアの「よむよむ」さんが 3学期の6年生に向けて 伝えたい思いとともに どんな絵本がいいか 一生懸命考えて 読んでくださっていましたが 今年は残念ながら 3学期は読み聞かせに来ていただくことができませんでした。

そこで「よむよむ」の何人かの方から メッセージをいただいていたので 読み聞かせの前に読みました。

「本を読んでほしい」「なりたい自分を見つけてほしい」などなど 期待や応援をこめたあたたかいメッセージを 顔を上げて 真剣な表情で聞いてくれていたので ちゃんと届いたのではないかと思います。

最後の絵本は

「鳥の島」

作) 川端 誠 BL出版

あこがれが鳥に海を渡ろうとさせ、志半ばで皆落ちていく。

それでも「くいはなかった」。

そうして沈んだ無数の鳥たちが島になり、やがて一羽の鳥に海を渡らせ切る。

そうして鳥の島は、今も残っている。

誰も知らなくても。



名も知れぬ無数の一歩に支えられ、新たな高みへと踏み出せる。

無数の支えた者はその事実を知らず、支えられた者も何が支えてくれたのかに気づかず、それでも意志は受け継がれていくのでしょうか。

恐れずに まだ見ぬ世界に 夢や憧れを抱いて挑戦してほしい・・・そんな 思いを 私からのメッセージとして この絵

本を読みました。

読み終わると 6年生から「よむよむ」の皆さんへ、ということで 感謝の気持ちをこめて作った紙芝居を読んでもくれました。



あるところに 美山小学校という小学校がありました。
その学校に通っている こうきくんとという小学1年生のこどもがいました。
その子は 本がとても苦手でした。
こうきくんは 本を読むのをめんどくさがりました。



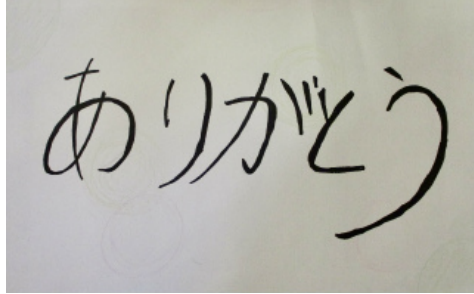
そんなある日、ボランティアのよむよむさんという人が読み聞かせに来てくださいました。
その読み聞かせに来てくださった方は、「よむよむの木」という本を読み聞かせてくれました。
(こうき)「世の中に こんな面白い本があるんだ」
と この本に感動してしまいました。
(よむよむさん)「この木は どこかにあるので探してみてくださいね」
と よむよむさんは言いました。
(こうき)「ぼく 本が苦手だから 探してみようっと。そんな木、本当にあるのかな」と つぶやきました。



こうきくんは 学校が休みの日に よむよむの木を探しに行きました。
近くの公園に よむよむ木を探しに行きました。
しかし よむよむの木はちっとも見つかりませんでした。
次に 図書館の庭や森、校庭にも探しに行きました。それでも よむよむの木は見つかりませんでした。
帰ろうとした その時、優しい春の風が こうきくんを包みました。
目をつむっていたこうきくんは 目をあけると 目の前に大きな木、本の柄の赤い木の実、そして 6年後のこうきくんが見えました。



その 6年生のこうきくんが近づいてきて「何か聞きたいことがあるのかい?」とこうきくんに聞きました。
こうきくんは すこし戸惑いましたが「僕は 大きくなったら 本が好きになっているかな?」と 大きな声で聞きました。
6年生のこうきくんは「きっと好きになっているよ!」
(こうきくん)「ありがとう!」
そして 6年生のこうきくんは6年後の未来へ帰っていきました。



そして こうきくんは 本の魅力に気づきました。
その後 こうきくんは 本をたくさん読んで 楽しい日々を送りました。
「よむよむさん ありがとう」と 小さくつぶやきました。

「よむよむ」さんに 直接紙芝居の実演は見ていただけなかったのですが、そのあとの会議で「よむよむ」さんの代表者の
方々に 6年生の代わりに紙芝居を読みました。
みなさん とても喜び、感激して 涙ぐんでいる方もおられました。
自分たちの活動が ちゃんと子どもたちに届いていることを実感できる サプライズの感謝の気持ちだったと思います。
6年生のみなさん、ありがとう。

10:58 | 読み聞かせ

2022/03/07 朝の読み聞かせ

| by 美山小

3年生

「ころべばいいのに」

作) ヨシタケシンスケ ブロンズ新社

大人気の絵本作家、ヨシタケシンスケさんの発想えほん第4弾。

きれいな人がいてもいいんじゃない！
ヨシタケシンスケ流こころの処方箋。
イヤな気持ちって、自分ではどうしようもないどしゃぶりの雨のようなもの。
そんなときはね・・・！



誰かキライな人がいる、何人かいる、そんなときにどうしたらいいかを 正しい答え.....ではなく、どのように向き合っ
て“その時”を過ごせばよりよいか、生き方・考え方・やり過ごし方を、こどもらしい目線から いろんなパターンを示してく
れます。

今回の女の子は、誰の力も借りず、助けとなるような言葉ももらわず、進んだり立ち止まったりしながら、自分の周囲も内
側もよく観察しながら、一人でひとまずのゴールまで歩きます。



ヨシタケさんの絵は 見開きにコマ割りのようにたくさん小さい絵があったりするので 絵本を開いて 教室での読み聞か
せするには ちょっと不向きかもしれません。

今回 電子黒板にひとシーンひとシーン 大きく映して読んでいったら みんなとっても集中してみてくれて 難しそうな

場面も それなりにわかってくれたようでした。

女の子の発想が どんどん膨らんでいくのが とっても楽しくて 前向きな気持ちになれます。
「イヤ」を思いっきり考えてみるのも 奥が深いもんですね。

14:29 | 読み聞かせ

2022/02/28 朝の読み聞かせ

| by 美山小

6年生

「あめだま」

作)ペク・ヒナ ブロンズ新社

文房具屋でドンドンが見つけたのは、6つのあめだま。
部屋で1つ食べると、「リモコンがはさまって痛い！」とソファの声が聞こえてきた！
もう1つ食べると、今度は犬のグスリが話しはじめて.....
あめだまを通して周囲の愛に気づいたとき、ひとりぼっちの少年におとずれた変化とは？
心あたたまる成長の物語。



韓国の人気絵本作家ペク・ヒナさんの絵本の特徴は、なんととってもその人形と緻密なセット作り。
この予測もつかないユニークなお話をファンタジーな世界だけで終わらせないのは、どこまでも具体的なのに魅力ある表現の幅と、実在感です。
特にドクドクの表情からは 気持ちがあふれ出てきて 目が離せません。

文章には 独特の「間」があるのですが 長谷川さんの訳した関西弁で読むと その空気感が心地よく伝えられるように感じました。

一面に お父さんの小言が書かれているページは 全部読むとうとうしい気もするのですが、読み飛ばすわけにもいかずなるべくさりと 頑張って早口で読んでみました。
誰も思い当たる小言が いくつかはあったのではないかと思います(笑)

電子黒板に画像を映しました。
絵本自体もアニメーションのような雰囲気もあるので トランジションも工夫してみました。
6年生ともなると みんなとってもお行儀よく 静かに聞いてくれていますが わかりやすい反応も少なく どんな風に感じたかは よくわかりません。
楽しんでくれていたら嬉しいです。

08:55 | 読み聞かせ

2022/02/21 朝の読み聞かせ

| by 美山小

5年生

「希望の牧場」

作)森 絵都 岩崎書店

この絵本は、福島原発の警戒区域内に取り残された「希望の牧場・ふくしま」のこともとにつくられた絵本です。



東日本大震災のあと発生した原発事故によって「立ち入り禁止区域」になった牧場にとどまり、そこに取り残された牛たちを、何が何でも守りつづけようとした、牛飼いのすがたを描き出します。

みじかい文章で場面は構成され、「牛飼い」の語りが一場面、一場面がまっすぐにとどいてきます。

「希望の牧場・ふくしま」では、餌不足の問題が深刻化していくなか、10年が過ぎた今も牛たちを生きかすための取り組みが続いています。

東北から遠く離れた土地で暮らす私たちは 日常の当たり前の生活の中で 東北で起きた「あの日のこと」、「あの日以降のこと」を 思うこと、考えてみることで 年月が経つとともに 少なくなってきました。そして 世界中に新型コロナが襲われている現在……。

「希望」ってなんだろう？ 生きものが「生きる」ってなに？
そして「放射能」や「新型コロナ」をどうとらえたらいいのか？
いろんなことを考えるきっかけになると思います。

5年生のみんなが生まれた年におきた 東日本大震災。
直接のかかわりはなくても 折に触れて考えてみてほしいと思って 読みました。

電子黒板にスライドショーとして絵本の画像を映したので みんなしっかり注目してくれていたようでした。

09:44 | 読み聞かせ

2022/02/14 朝の読み聞かせ

| by 美山小

4年生

「二平方メートルの世界で」

作)前田 海音 小学館

札幌に暮らす小学3年生の主人公は、生まれたときから脳神経の病気で入院を繰り返している。入院するとしばらくベッドの上での生活となる。お母さんは一緒にいてくれるが、放射線を使った治療のときは、ガラスを隔てて別々になる。家ではお兄ちゃんが鍵っ子になる。申し訳ない気持ちだ。どうして自分だけが病気なんだろう……。そんなある日、海音ちゃんは、病室で大発見をする。わたしはひとりぼっちじゃなかった!



この絵本のおはなしは 今 5年生の海音ちゃんが3年生の時に書いた作文に 人気絵本作家の はたこうしろうさんが絵をつけたものです。

その話をすると こどもたちからは「すごっ」という反応でした。

作文が大賞を受賞して記事になったときに 美山町の方から ぜひ この作文を美山小学校の子どもたちに紹介してほしい、と 言われていたのですが なかなかそういう機会がないまま時間がたってしまいました。

今回 絵本となって出版されたことにより 子どもたちにも手に取って読んでもらえるようになりました。
5.6年生には 絵本を購入したときに紹介したのですが、4年生は紹介できてなかったので 今回 読み聞かせをしました。

彼女の言葉は、一つ一つどれも重みがあり、まっすぐに心に刺さってきます。
けれどもそれは、悲しみだけではありません。
周りの人の気持ちを考えること・・・ひとりじゃない、ということ・・・
みんなが 覚えておきたい 大切なことばかりです。

ベッドの上で海音さんの見つけた大事な発見。
この絵本を通して、きっとまた違う誰かに届いていきますように。

12:50 | 読み聞かせ

2022/02/07 朝の読み聞かせ

| by 美山小

3年生

「ひめさま! そうはすごくおおきいぞら」

作)丸山 誠司 光村教育図書

ぞうを見たことがない姫様の元に忍者が次々と訪れ、ぞうを見た感想を報告します。
でーじまぎい、ぱりふとか…。忍者の言葉を手掛かりに姫さまが描いたぞうの姿は？
日本各地の方言に親しみ、ことばの豊かさを感じるユーモア絵本。
天真爛漫な姫と、お目付け役のじいとのやりとりがほほえましい、時代劇風の物語です。



ストーリー自体は単純なので 小さい子向けのお話のようですが、日本の地域と方言がいろいろ出てくるので なんとなくでも日本の地理がわかっていたほうが 楽しめるかな、と思います。

方言は ほとんど聞いたことのないものばかりだったようで (はてなマークの顔つき(笑)
大阪の「めっちゃ でかい」の時に「これだけは わかる。関西やからな」と 言ってました。
方言にふれることって あんまりないですもんね。

はじめて 象が日本にやってきたのは 1408年のことですが、その時は ごく限られた人しか目にすることはなかったよう
です。

多くの人が見られるようになった象というのは 1729年に ベトナムから献上品としてやってきた象。
長崎に到着して 京都で帝と謁見して、江戸の徳川家へと 80日かけて陸路を歩いて行列したそうです。
その後 13年間 徳川幕府のもとで飼育されていましたが 世話に手間も費用もかかるので持て余した幕府はさすがこ
い農民に払い下げられ、見世物にされて 大した世話もされず すぐに死んでしまい 亡骸さえも見世物になっていたと
か。

そんな話をすると「へえ～ すごーい」と びっくりしているようでした。

08:44 | 読み聞かせ

2022/01/31 朝の読み聞かせ

| by 美山小

今日の読み聞かせは 2年生。

今朝も とっても寒かったですね。
一年で 一番寒い日を なんていうか知ってる? と 聞いてみました。
「冬!」
うん そうなんだけど 冬の中でも 一番寒い日は?

「冬至!」

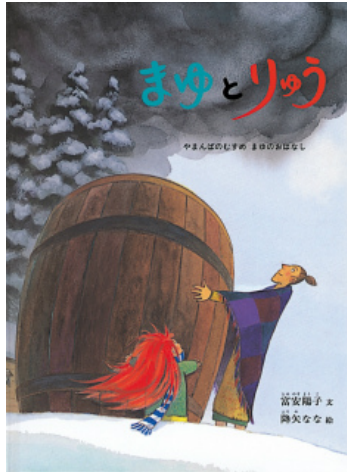
おいしい、それは一年一番で昼が短かく、夜が長いとき。
一番寒さの厳しいときは 大寒 です。今年 は 1月20日 でした。

一番寒い日がすぎると?・・・「だんだん あたたかくなる!」
だんだんあたたかくなると?・・・「春になる!」
春のはじまりを何という?・・・「???」
ちょっと難しかったかな。
でも 立春は知らなくても その前日の節分は ちゃんと知っていました。

今日のお話は 立春の頃にぴったりの

「まゆとりゅう」

作)富安 陽子 福音館書店



やまのぼりさんと、まゆが、龍の背に乗って、春一番の雨を降らせます。
激しい雨で、雪が溶け、雪解け水が川になる.....。
ダイナミックな季節の変わり目に、やまのぼりさんとまゆが大活躍するお話です。
おてんばむすめのまゆは やっぱりかわいいし、龍にまたがって 黒い雲を呼び寄せ 空を駆け回る絵は 迫力満点です。

今朝も 美山では雪がちらつき まだまだ 寒い日がつづくのですが、それでも 田畑に残る雪の様子を見ていると 確かに一歩一歩春へと近づいていると感じます。
はやく体感的にも春を感じたいものです。

08:58 | 読み聞かせ

■ 2022/01/20 ■ 館新刊図書貸し出し開始!!

| by 美山小

今日から新刊図書の貸し出しがスタートしました。図書室前の書架に予告されていたこともあって、中間休みの貸し出し開始と同時に、図書室にお目当ての本を借りようと、はやる気持ちを抑えながらも急いで集まってきた子どもたちでした。一時は、廊下にまで貸し出しの列が伸びるほどで、楽しみにしていたことがうかがえます。読書への関心を高めながら、いろいろな本の世界を楽しんでくれることを期待しています。







17:00

2022/01/17 朝の読み聞かせ

| by 美山小

毎週月曜日の朝に 地域の読書ボランティア「よむよむ」さんが 各学年にはいて読み聞かせをいただいているのですが、最近の新型コロナの感染拡大傾向をうけて 読書ボランティアによる読み聞かせが 当面の間中止となりました。

今日は だれがどんなお話をよんでくれるのかなあ・・・と 心待ちにしている子どもたちはもちろん 季節や学年にあわせて 本選びに悩みながらも 読み聞かせで子どもたちと会うのを 楽しみにしてくださっている よむよむの皆さん ほんとうに残念です。

せっかくの朝の読み聞かせの時間でしたので ひと学年ずつではありますが 図書室から読み聞かせにはいることにしました。
まずは1年生。

「十二支のおはなし」

作)内田 麟太郎 岩崎書店

お正月に神様のところへあいさつに行くことになった動物たち。
ちゃっかりもののねずみは牛の背にのり、門の前で一足先にゴールイン。
一番最初はねずみ年になった....。



「十二支って 知ってる?」と 尋ねると 「しってるー」とおおきな声。
「じゃあ どうやって 十二支を決めたかは?」と聞くと・・・それは 知らないようでした。
十二支のおはなしの絵本は何冊かあるのですが、この絵本 絵がとっても楽しいのです。
神様や門番もユニークだし 動物たちの迫力のあること!



そして 今年は真年ということで もう一冊

「トラのじゅうたんになりたかったトラ」

作)ジェラルド・ローズ 岩波書店

いいなあ。オレも、なかまにはいりたいなあ。

やせこけたトラは、宮殿のひろまで楽しそうにごはんを食べている王さま一家が、うらやましくてたまりません。

ある日、宮殿の庭にじゅうたんが干されているのを目にしたトラは、とんでもないことを思いつきます！



じゅうたんのふりをしたトラは バンバンはたきで叩かれたり ブラシでゴシゴシこすられたり おかしいやらかわいそうやら。

トラの表情も面白くて じわじわ笑えます。

テンポよく いろんなハプニングが続くので みんな 興味津々の顔でみてくれていました。

09:00 | 読み聞かせ

◀ 前 1 2 3 4 5 6 7 8 次 ▶ カテゴリ選択 ▼ 10件 ▼